



# ほんものを たべよう **B**

提出日  
5/ 火 水 木 金  
19 20 21 22

配達日  
5/ 火 水 木 金  
26 27 28 29

翌々週分配達日  
6/ 火 水 木 金  
2 3 4 5

2026.5月5週号

Alter Weekly Order Catalogue

### オルターの提案

本当に安全な食べものを手渡すために

- 「だれが・どこで・どのようにつくったか」の情報を日本一公開します。
- 「国産」「無農薬」にこだわり、日本の伝統食を守ります。
- 原料段階・飼育段階からポストハーベスト農薬、遺伝子組み換え、放射能汚染、トランス脂肪酸、食品添加物などを徹底的に追放します。
- プラスチック容器・レトルト食品を追放します。

## 野菜

# 炭素循環農法で自然農

たいへんおいしい野菜が育っています

## つくば自然農園・つくば自然農研究所

文責 西川 榮郎 (オルター代表)

### 色よし、味よし、抗酸化力よし

筑波山のふもと、田園と里山が広がるつくばみらい市の「つくば自然農園」坂本 一信代表は、農薬、除草剤、化学肥料はもとより、動物性肥料(家畜の糞からできた堆肥)に頼らない自然栽培で、にんにく、ミニトマト、ピーマン、さつまいもなどの野菜を栽培しています。圃場の微生物を生かすためには、窒素よりも炭素の施用が必要だとする炭素循環農法にも取り組み、C/N比(炭素量と窒素量の比率)の高い、剪定チップ、竹チップ、もみ殻、落葉、バーク堆肥、緑肥(ソルゴー、えん麦)、河川敷の草などを浅くすき込んで使用しています。種子も在来種、固定種を心がけています。

その結果、春菊のように通常にが味のある野菜までもが、硝酸イオンをほとんど含まず(10ppm以下)甘味のある、抗酸化力の強いおいしい野菜に育っています。

有機農業技術者会議主催のORGANIC・ECO FESTA 2023において、ピーマン部門と



つくば自然農園の坂本 一信代表

ミニトマト部門で、それぞれ最優秀賞を獲得しました。

### 地域の農業を変えていく

つくば自然農園は2020年、坂本さんが創業しました。現在はその7ヘクタールの農地で新規就農者の養成や農業塾も行っています。がん患者たちを救うためのゲルソン療法にも取り組んでいます。

オルターへの野菜の出荷は、2025年に設立したその農業部門「つくば自然農研究所」からになります。

### 官僚の道をやめて

坂本さんは大阪府柏原市の生まれです。東北大学工学部および、その大学院を卒業後、原子力研究の財団に勤務し、福島原発事故をきっかけに組織が環境省の原子力規制委員会に吸収され、国家公務員となりました。国際原子力機関IAEAの原発の老朽化問題の日本代表として、福島事故以降の海外発表の資料作成の仕事をしてきました。

### 娘のアレルギーがきっかけ

その坂本さんがなぜ自然農の農家になったのか。娘のアレルギーがきっかけに、教師だった奥様の麻帆さんが、まず食の安全に興味を持ち、食の安全に関する本を家にたくさん買い揃えていました。本好きの坂本さんが、ある日それらの本に興味を持ち、読



みあさりました。アレルギーだけでなく、今ある日本の食の惨状に気づき、この国の未来ある子どもたちに自分たちで作った安全な野菜を届けたいという思いから、農業者になる決心をされました。まずは家庭菜園から、そして新規就農を果たしました。

### 実践しながら学んできた

坂本さんがすごいのは、自然農、有機農業、炭素循環農法、ミネラル農法、アミノ酸技術、土壌改良、微生物活用、ソマチッド、シアノバクテリア、超耐熱菌、バクチャー、ねじねじ、水の活性技術、棚倉構造線の土、など興味を持ったあらゆる技術は実践し、自らのものに学びとってこられたことです。まさに“日本一”を狙える技術を確立されています。

### 日本の食を取り戻す大きな砦に

坂本さんをオルターにつないだのは発達障がい問題に取り組むエジソン・アインシュタインスクール協会の井上 祐宏専務理事です。坂本さんはオルターのことはスタッフの1人がオルター会員だったことから以前から知っていましたが、私との出会いから一気にお互いに共鳴しました。

### つくば自然農園・つくば自然農研究所の 自然栽培野菜 ☆☆☆

農薬、化学肥料、動物性肥料の使用ありません。炭素循環農法として落ち葉、緑肥(ソルゴー、えん麦)、河川敷の草などC/N比40以上の炭素資材を使っています。